

2022 年度日本高等教育開発協会研究申請書

2022 年 6 月 19 日

I. 研究名称

大学教員のための教育倫理の教材開発

II. 研究代表者

中井俊樹（愛媛大学）

III. 研究組織

中井俊樹（愛媛大学）、関沢和泉（東日本国際大学）、上月翔太（愛媛大学、入会申請中）

IV. 研究期間

2022 年 7 月から 2024 年 3 月

V. 研究の背景と目的

大学における教育活動において、大学教員がすべき行動とすべきでない行動がある。そのような行動の規範が倫理である。教育活動を進める上で一定の裁量を与えられる大学教員は、倫理面での自己規制が求められる職業である。近年では、パワーハラスメントの一類型であるアカデミックハラスメントの用語が広く使用されるようになり、あるいは学修履歴データの利活用が問題になるなど、これまでの習慣や法律を参照できない状況が多く生じている。そうした状況の中で、各大学教員が倫理の重要性を認識し、倫理観の向上を図るよう促すことは、大学教員の能力開発における重要な課題の1つとなっている。

大学教員の教育における倫理が重要であるにも関わらず、その研究の蓄積は多くない。また、各大学が実施するファカルティディベロップメントにおいても教育における倫理を扱った研修は多くないのが現状である。

そこで本研究では、大学教員のための教育倫理とその論点を明らかにした上で、大学教員が倫理的な教育の方法を身につけることができる教材を開発することを目的とする。具体的には、研究期間において以下の3つの目標を達成することを目指す。

1. 大学教員の教育倫理とその論点を明らかにする
2. 大学教員の教育倫理に関する考え方や葛藤を明らかにする
3. 大学教員のための倫理的な教育の方法の教材を開発する

VI. 研究の計画

本研究の目的を達成するために3つの活動を行う。第一に、文献調査によって大学教員の教育倫理とその論点を明らかにする。研究メンバーは英語のみならず幅広い言語に対応できるため、国際的な大学教員の教育倫理の研究動向を調査する。また、技術者倫理や医療者倫理などさまざまな領域における職業倫理の論点についても参考にする。第二に、日本の大学教員に対する調査を行うことで、教育における倫理に対する考え方や直面する課題や葛藤を明らかにする。第三に、これまでの研究にもとづき、大学教員の倫理観向上のための教材を開発する。教材開発においては、大学教員に必要な倫理観に関する能力開発のあり方と方法について、その個別領域の特殊性に配慮しつつ整理することを目指す。また、倫理的な教育の方法に関するワークショップを開催することで、教材の質の向上を目指す。現時点で以下のような内容から構成される教材を検討している。

教育における倫理の意義、教育における倫理とその特徴、倫理にかかわる問題と対応方法、教育の自由と責任、誠実な教育、授業設計における倫理、学習者との関係における倫理、教授法における倫理、個別指導における倫理、学生の倫理に反する言動への対応、評価における倫理、授業改善における倫理、研究活動などとの両立、組織の倫理と教員の倫理、教育の倫理観の向上

VII. 助成金の使用計画

(単位:万円)

2022 年度		2023 年度	
関連書籍	8	関連書籍	5
消耗品	1	消耗品	2
国内旅費	3	国内旅費	5
謝金*	3	謝金*	3
合計	15	合計	15

注) 日本高等教育開発協会会員以外の者への研究協力者への謝金

VIII. 成果の公表方法

本研究の進捗と成果は研究期間中の2回の日本高等教育開発協会年次大会で報告する。大学教員の教育倫理の論点と実態については、『高等教育開発』への投稿論文としてまとめる。また、大学教員のための倫理的な教育の方法を整理した教材については一般書籍としての刊行を目指す。